

Sun Fire X4470 サーバー

仮想マシンソフトウェアインストールガイド



Copyright © 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



Adobe PostScript

目次

このマニュアルの使用方法 v

部 I 仮想マシンソフトウェアのインストール

1. はじめに 3

サポートされる仮想マシンソフトウェア 3

VM ソフトウェアインストールの前提条件 4

VM ソフトウェアのインストール作業の概要 5

2. Oracle VM のインストール 7

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール 7
インストールを開始する前に 8

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server
のインストール 8

▼ Oracle VM Manager のインストール 9

Oracle VM のインストール後の作業 10

Oracle VM ソフトウェアの更新 10

Oracle VM リソースの管理 10

3. VMware ESX または ESXi のインストール 11

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi
のインストール 11

インストールを開始する前に 12

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi のインストール 13

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX のインストール 14

VMware ESX および ESXi のインストール後の作業 17

VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定 17

▼ ネットワークアダプタ設定の構成 17

VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ 20

▼ VSphere Client での VMFS データストアの認識 20

ESX または ESXi ソフトウェアの更新 21

VMware リソースの管理 21

部 II 仮想マシンシステム管理者リファレンス

A. サポートされるインストール方法 25

コンソール出力 25

インストール起動メディア 27

インストール先 30

B. サポートされているオペレーティングシステム 31

サポートされているオペレーティングシステム 32

C. 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定 33

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認 33

インストールを開始する前に 34

▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集 34

索引 37

このマニュアルの使用方法

この仮想マシンソフトウェアのインストールガイドでは、Oracle の Sun Fire X4470 サーバーに仮想マシンソフトウェアをインストールして構成する方法について説明します。このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (Authorized Service Provider、ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

- v ページの「製品情報」
- vi ページの「関連ドキュメント」
- vii ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」
- viii ページの「ドキュメントのフィードバック」
- viii ページの「製品のダウンロード」

製品情報

Sun Fire X4770 サーバーの詳細については、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/goto/x4470>

このサイトには、次の情報とダウンロードにアクセスするためのリンクが含まれています。

- 製品情報および仕様
- サポートされているオペレーティングシステム
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード
- サポートされているオプションカード
- 外部ストレージオプション
- 消費電力計算機

関連ドキュメント

次の表に一覧表示する関連マニュアルは、オンラインで利用できます。

(<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4470#hic>)

タイトル	コンテンツ	Part No.	形式
『Sun Fire X4470 サーバのご使用にあたって』	サーバーに関する最新情報	821-2385	PDF HTML
『Sun Fire X4470 Server Getting Started Guide』	サーバーのセットアップに関する基本的なインストール情報	821-0333	PDF 印刷
『Sun Fire X4470 サーバ設置マニュアル』	サーバーのセットアップに関する詳細なインストール情報	821-2370	PDF HTML 印刷物
『Sun Fire X4470 サーバ Linux オペレーティングシステムインストールガイド』	Linux オペレーティングシステムのインストール手順	821-2379	PDF HTML
『Sun Fire X4470 サーバ Windows オペレーティングシステムインストールガイド』	Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順	821-2376	PDF HTML
『Sun Fire X4470 サーバ Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』	Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順	821-2373	PDF HTML
『Sun Fire X4470 サーバ 仮想マシンソフトウェアインストールガイド』	Oracle VM and VMware ESX/ESXi のインストール手順	821-2382	PDF HTML
『Sun Fire X4470 Server Service Manual』	サーバーの保守とアップグレードに関する情報と手順	821-0703	PDF HTML
『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for x64 Servers』	Sun Installation Assistant を使用して Windows および Linux オペレーティングシステムをインストールする手順	821-0694	PDF HTML
『Oracle x86 サーバ診断ガイド』	サーバーの診断およびトラブルシューティングに関する情報	820-7813	PDF HTML

タイトル	コンテンツ	Part No.	形式
『Sun Server CLI ツールおよび IPMItool 2.0 ユーザーズガイド』	Sun Server Hardware Management Pack のアプリケーションおよびユーティリティの使用手順	821-2187	PDF HTML
Oracle Integrated Lights Out Manager 3.0 マニュアルセット (以前の Sun Integrated Lights Out Manager マニュアルセット)	ILOM 3.0 をサポートするサーバーとおよびサーバーモジュールに共通の ILOM 機能とタスクについてのドキュメント	820-7382 820-7370 820-7373 820-7376 820-6413	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4470 サーバー』	Sun Fire X4470 サーバーに固有の ILOM 3.0 に関する情報	821-2388	PDF HTML
『Sun Fire X4470 Server Safety and Compliance Guide』	サーバーに対するハードウェアの安全性および適合性の情報	821-0705	PDF
Sun ハードウェアシステムの重要な安全性に関する情報	ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関するすべての Sun 製ハードウェアシステム向けの多言語情報	821-1590	印刷

これらのドキュメントの一部については、この表の上に記載されている Web サイトで翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

- マニュアル: (<http://docs.sun.com>)
- サポート: (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング: (<http://www.sun.com/training/>)

ドキュメントのフィードバック

コメントは、(<http://docs.sun.com>) で「Feedback [+]」リンクをクリックしてお送りください。ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire X4470 サーバー仮想マシンソフトウェアインストールガイド』、Part No. 821-2382-10。

製品のダウンロード

最新のソフトウェアをダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

このサイトには、次の項目にアクセスできるリンクがあります。

- Tool and Driver DVD イメージ
- Sun Installation Assistant DVD イメージ
- Sun Validation Test Suite (SunVTS) の更新プログラム

部 I 仮想マシンソフトウェアのインストール

ここでは Oracle の Sun Fire X4470 サーバーに仮想マシンソフトウェアをインストールする方法についてのトピックをリストします。

説明	リンク
要件。 インストールに関する注意事項と要件について確認するには、第 1 章を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 第 1 章概要
手順。 適切な章を参照して、Oracle VM、VMware ESX、または VMware ESXi をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">• 第 2 章 Oracle VM のインストール• 第 3 章 VMware ESX または ESXi のインストール
参照情報。 これらのトピックを必要に応じて参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 A サポートされるインストール方法• 付録 B サポートされているオペレーティングシステム• 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

第1章

はじめに

この章では、サポートされる仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールする方法の概要について説明します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 3 ページの「サポートされる仮想マシンソフトウェア」
- 4 ページの「VM ソフトウェアインストールの前提条件」
- 5 ページの「VM ソフトウェアのインストール作業の概要」

サポートされる仮想マシンソフトウェア

Sun Fire X4470 サーバーは、次の仮想マシン (Virtual Machine、VM) ソフトウェアをサポートします。

VM ソフトウェア	サポートされる最小版
Oracle VM	Release 2.2.1
VMware ESX	Release 4.0 Update 1
VMware ESXi	Release 4.0 Update 1

Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Server X4470 サーバー Web サイトにアクセスして、オペレーティングシステムのリンクに移動してください。

(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

VM ソフトウェアインストールの前提条件

サーバーへの VM ソフトウェアのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 1-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	<ul style="list-style-type: none">『Sun Fire X4470 サーバー 設置マニュアル』(821-2370)
VM ソフトウェアインストールプログラムを起動できるようにする 配備方法が設定されている	VM ソフトウェアをインストールするローカルまたはリモートによる配備方法を選択するためのガイドライン。	<ul style="list-style-type: none">付録 A
Oracle VM インストールのハードウェア要件	Oracle VM では、静的 IP アドレスを設定した 2 つのシステムが必要です。 <ul style="list-style-type: none">一方のシステムには、Oracle Virtual Machine Server をインストールします。もう一方のシステムでは、次のいずれかの Linux オペレーティングシステムがインストールされた Oracle Virtual Machine Manager を実行します。<ul style="list-style-type: none">- Oracle Enterprise Linux Release 4.5 以降- Red Hat Enterprise Linux Release 4 以降	<ul style="list-style-type: none">『Oracle VM Server Release Notes』および『Oracle VM Manager Release Notes』(http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)
RAID ボリュームの要件	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。VMware をインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。	<ul style="list-style-type: none">『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』(http://www.lsi.com/support/sun/)
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	VM ソフトウェアをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none">付録 C

表 1-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項 (続き)

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
OS のインストールに関する最新情報とアップデートの入手	『Sun Fire X4470 サーバード使用にあたって』および VM ソフトウェアのリリースノートを参照して、サポートされるソフトウェアとアップデートに関する最新情報を入手します。	<ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4470 サーバード使用にあたって』(821-2385) • 『Oracle VM 2.2.1 リリースノート』 (http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm) • 『VMware ESX 4.0 Update 1 リリースノート』 (http://www.vmware.com/support/vsphere4/doc/vsp_esx40_u1_rel_notes.html) • 『VMware ESXi Update 1 リリースノート』 (http://www.vmware.com/support/vsphere4/doc/vsp_esxi40_u1_rel_notes.html)

VM ソフトウェアのインストール作業の概要

仮想マシンソフトウェアをインストールするには、次に示す手順をすべて順番に実行します。

1. VM ソフトウェアをインストールするためのメディアを入手します。
 - Oracle VM インストールプログラムの ISO イ次の節で説明する手順に従って、VM ソフトウェアをインストールします。メージは、次の Web サイトからダウンロードできます。<http://www.oracle.com/virtualization>
 - ESX または ESXi インストールプログラムの ISO イメージは、次の場所からダウンロードできます。<http://www.vmware.com/download>

注 – VM ソフトウェアの ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

2. [付録 A](#) を参考にして、VM ソフトウェアのインストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。

3. 次の節で説明する手順に従って、VM ソフトウェアをインストールします。
 - 7 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」
 - 11 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール」
4. 次の節の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。
 - 10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」
 - 17 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」

第2章

Oracle VM のインストール

この章では、Oracle VM ソフトウェアのインストールに必要な手順の概要を示します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [7 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)
 - [10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」](#)
-

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール

この節の手順では、Oracle VM ソフトウェアをインストールする手順の概要を示します。この手順では、次のいずれかのソースから VM のインストールメディアを起動することを前提としています。

- Oracle VM 2.2.1 CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
 - Oracle VM 2.2.1 ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)
-

注 – Oracle VM の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

Oracle VM ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- [8 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール」](#)
- [9 ページの「Oracle VM Manager のインストール」](#)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- Oracle VM Server および Manager のインストールに適用される注意事項をすべて満たしている。詳細は、[第 1 章](#)を参照してください。
- Oracle VM のドキュメントを入手している。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

Oracle VM ドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます。
(http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール

1. Oracle VM Server のインストールメディアを起動できることを確認します。
 - **CD/DVD を使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle VM Server メディアの起動ディスクを挿入します。
 - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」 --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源を入れ直します。

例:

- **ILOM Web インタフェースで、**「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して** (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Oracle VM Server のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、Oracle VM Manager インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

5. 指示に従って、Oracle VM Server および Oracle VM Agent をインストールします。
ここで、Oracle VM インストールプログラムは Oracle VM Server と Oracle VM Agent をインストールします。
6. インストール中に設定したパスワードを使用して、Oracle VM Server に root ユーザーとしてログインします。

注 – Oracle VM のインストールには 2 つのパスワードが必要です。1 つは VM Server の root アカウント用、もう 1 つは VM エージェント用のパスワードです。必要な場合は、Oracle VM Server のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。

7. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されていない場合は、Oracle VM Manager をインストールする必要があります。
Oracle VM Manager をインストールするには、9 ページの「[Oracle VM Manager のインストール](#)」を参照してください。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されている場合は、10 ページの「[Oracle VM のインストール後の作業](#)」に進みます。

▼ Oracle VM Manager のインストール

1. Oracle VM Manager をインストールするシステムで、サポートされている Linux オペレーティングシステムを起動します。
2. Oracle VM Manager のインストールメディアがマウントされていることを確認します。
3. 次のスクリプトを root ユーザーとして実行します。

```
# sh runInstaller.sh
```

4. 指示に従って Oracle VM Manager をインストールします。

Oracle VM Agent のパスワードを使用して、管理インタフェースにログインする必要があります。

必要な場合は、Oracle VM Manager のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。
5. Oracle VM Manager のインストール完了後に、次の手順を実行します。
 - a. Web ベースの Oracle VM 管理インタフェースに管理者としてログインします。

Oracle VM Manager のインストール中に作成したパスワードを入力する必要があります。
 - b. Web 管理インタフェースのオプションを使用して、サーバープールの作成および管理と、仮想マシンの作成、設定、および管理を行います。
6. 10 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。

Oracle VM のインストール後の作業

Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 10 ページの「Oracle VM ソフトウェアの更新」
- 10 ページの「Oracle VM リソースの管理」

Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要な場合は、最新のソフトウェアリリースを利用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

(<http://www.oracle.com/virtualization>)

Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースの設定、アクセス、および管理を行う方法については、次の Web サイトで Oracle VM のドキュメントライブラリを参照してください。

(http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)

第3章

VMware ESX または ESXi のインストール

この章では、次に示す VMware のインストールに必要な手順の概要を示します。

- VMware ESX 4.0 Update 1 (および以降のリリース)
- VMware ESXi 4.0. Update 1 (および以降のリリース)

この章では、次の項目について説明します。

- [11 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール」](#)
- [17 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」](#)

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール

この節の手順では、VMware (ESX または ESXi) ソフトウェアをローカルまたはリモートのメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから VMware のインストールメディアを起動することを前提としています。

- VMware ESX または ESXi 4.0 Update 1 の CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- VMware ESX または ESXi 4.0 Update 1 の ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – VMware の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

ローカルメディアまたはリモートメディアから VMware ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- [13 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi のインストール」](#)
- [14 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX のインストール」](#)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- 仮想マシンソフトウェアのインストールに適用される注意事項をすべて満たしている。詳細は、[4 ページの「VM ソフトウェアインストールの前提条件」](#)を参照してください。

注 – VMware ESX および ESXi ソフトウェア製品を使用するには、Sun Fire X4470 サーバーの各物理 CPU ごとに RAM が取り付けられている必要があります。システムの各物理 CPU ごとに、バランスのとれたメモリー構成のメモリーライザーが装着されていることを確認してください。

- VMware ESX または ESXi のドキュメントを入手している。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

VMware ESX および ESXi のドキュメントは次の Web サイトで入手できます。

http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pubs.html

- VMware ESX のインストールの場合、VM サービスコンソールに使用するネットワーク管理インタフェースを決定しています。

VM サービスコンソールおよび管理インタフェースでは、ネットワークインタフェースが必要です。サービスコンソールは、最初に見つかった接続中のインタフェースを自動的に使用しません。このため、ネットワークインタフェースのデフォルトは vmic0 に設定されており、インストール中にサービスコンソール用のネットワークインタフェースを選択する必要があります。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - **CD/DVD を使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESXi 4.0 Update 1 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」 --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェースで、**「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。**

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。
5. インストールを完了するには、ESXi 4.0 Update 1 のインストールドキュメントを参照してください。

VMware ESXi 4.0 のインストールドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pubs.html
6. VMware ESXi 4.0 Update 1 のインストール後、17 ページの「[VMware ESX および ESXi のインストール後の作業](#)」に進みます。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - **CD/DVD を使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESX 4.0 Update 1 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」->「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェースで、**「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して** (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。
5. VMware インストールプログラムを続行し、必要な場合は VMware ESX 4.0 のインストールドキュメントを参照してください。
6. 「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログが表示されたら、次の手順を実行します。

ESX 4.0

Network Configuration

Select an adapter for ESX

Select an adapter for ESX to use for system tasks.

Network Adapter: -Connected

This adapter requires a VLAN ID (Leave unchecked if you are not sure)

VLAN Settings: VLAN ID

- a. 「ネットワークアダプタ (Network Adapter)」フィールドで、ドロップダウン矢印をクリックして使用するネットワークアダプタを選択し、「次へ (Next)」をクリックします。

このダイアログで、VMware サービスコンソール (vnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (つまり、ネットワークに接続されたアダプタ) を指定する必要があります。上のダイアログの図に示すように、有効な各ネットワークアダプタの横には緑色のチェックマークが表示されます。また、ネットワークポート (たとえば、NET0、NET1、NET2、または NET3) に関連付けられた MAC アドレスも表示されます。MAC アドレスを使用して、存在している物理ネットワークポートを確認できます。

また、ILOM コマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) を使用して、サーバーの物理ネットワークポートに関連付けられている MAC アドレスを確認することもできます。たとえば、ネットワークポート NET0 に関連付けられている MAC アドレスを確認するには、ILOM CLI で次のコマンドを入力します。

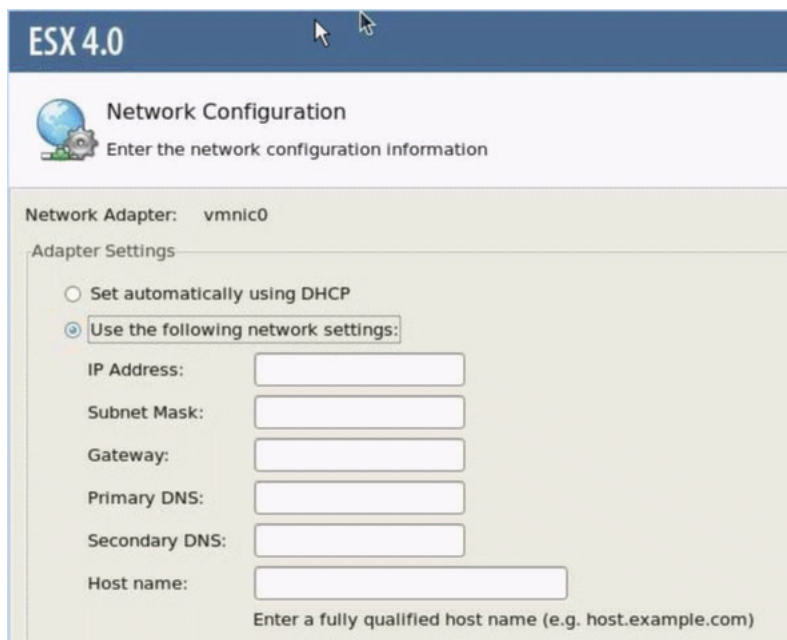
-> **show /SYS/MB/NET0**

次の出力例では、NET0 の MAC アドレスは 00:14:4F:CA:B8:36 です。

```
->show /SYS/MB/NET0
/SYS/MB/NET0
Targets:
Properties:    type = Network Interface
ipmi_name = MB/NET0
fru_name = GIGABIT ETHERNET CONTROLLERS
fru_manufacturer = INTEL
fru_part_number = 82575EB
fru_serial_number = 00:14:4F:CA:B8:36
fault_state = OK
clear_fault_action = (none)
```

注 – 選択するネットワークアダプタが不明の場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ESX 4.0 の「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログが表示され、ここでネットワークアダプタ設定を指定します。



- b. 「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログで、次のいずれかを実行します。
 - ネットワークアダプタを自動設定する場合は、「Set automatically using DHCP」を選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
または
 - ネットワークアダプタを手動で設定する場合は、「Use the following network settings」を選択し、適切なフィールドにネットワーク設定を指定して、「次へ (Next)」をクリックします。
7. VMware ESX 4.0 Server のインストールを完了し、必要な場合は VMware ESX 4.0 Server のインストールドキュメントを参照してください。
8. インストールの完了後、17 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」に進みます。

VMware ESX および ESXi のインストール後の作業

ESX または ESXi のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

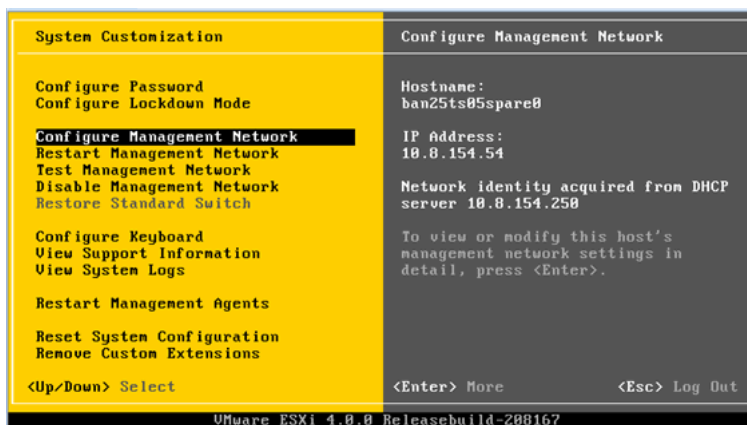
- 17 ページの「VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定」
- 20 ページの「VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ」
- 21 ページの「ESX または ESXi ソフトウェアの更新」
- 21 ページの「VMware リソースの管理」

VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定

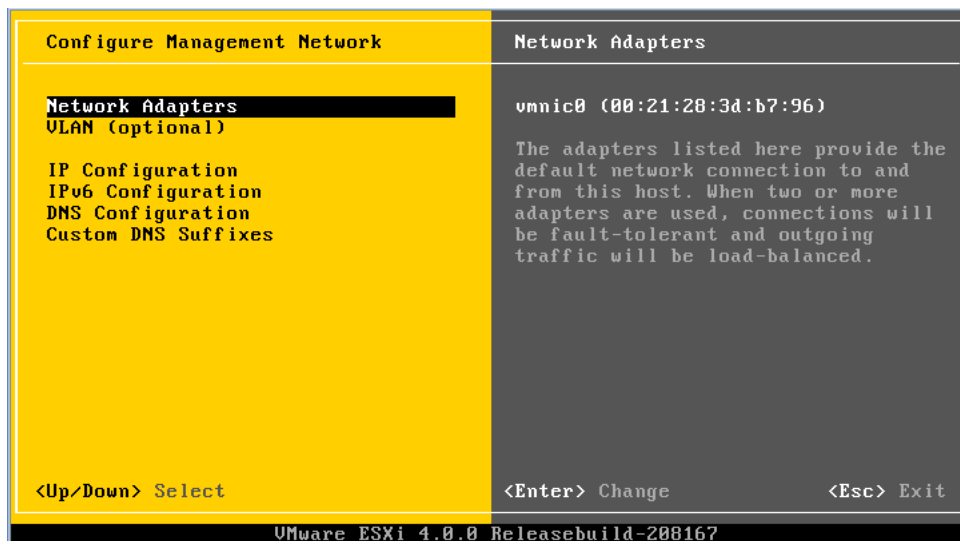
次の手順では、サーバーに取り付けられているネットワークアダプタを利用できるように VMware ESXi を設定する方法について説明します。これらの手順には、サーバーに取り付けられた各ネットワークアダプタの物理ポートの場所を検出する手順も含まれます。

▼ ネットワークアダプタ設定の構成

1. VMware ESXi Server にログインします。
2. 「System Customization」ダイアログにアクセスし、「Configure Management Network」を選択します。

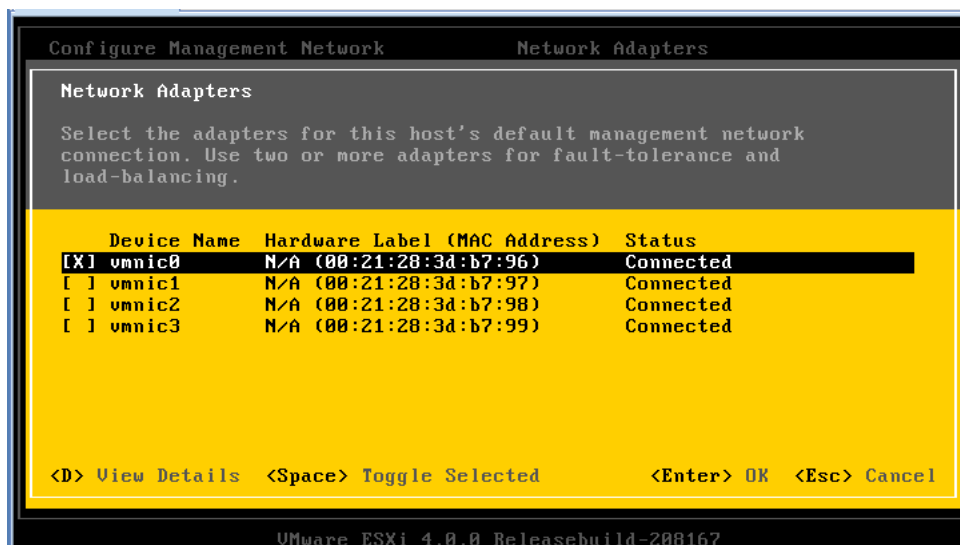


「Configure Management Network」ダイアログが表示されます。



3. 「Configuration Management」ダイアログで、「ネットワークアダプタ (Network Adapters)」を選択します。

「ネットワークアダプタ (Network Adapters)」ダイアログが表示されます。



4. 「Network Adapters (ネットワークアダプタ)」ダイアログで、VMware サービスコンソール (vmmnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (ネットワークに接続されたアダプタ) を選択し、Enter キーを押します。

VMware サービスコンソール (vmmnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (ネットワークに接続されたアダプタ) を指定する必要があります。サーバーの物理ネットワークポート (たとえば、NET0、NET1、NET2、または NET3) に関連付けられている MAC アドレスが、「Hardware Label」列に表示されます。したがって、MAC アドレスを使用して、表示されているサーバーの物理ネットワークポートを確認できます。たとえば、サーバーの各ネットワークポートに関連付けられている MAC アドレスを確認するには、ILOM コマンド行インタフェース (CLI) で各ポートに対して次のコマンドを入力します。

```
-> show /SYS/MB/NETn
```

n には 0、1、2、または 3 を指定します。

上のダイアログの画面に示すネットワークアダプタがネットワークポート NET0 に関連付けられている場合は、CLI コマンドの **show /SYS/MB/NET0** で、次の出力が生成されます。fru_serial_number フィールドに MAC アドレスが表示されます。

```
-> show /SYS/MB/NET0
/SYS/MB/NET0
Targets:
Properties:
type = Network Interface ipmi_name = MB/NET0
fru_name = GIGABIT ETHERNET CONTROLLERS
fru_manufacturer = INTEL
fru_part_number = 82576EB
fru_serial_number = 00:21:28:3D:B7:96
fru_extra_2 = 00:21:28:3D:B7:96
fault_state = OK
clear_fault_action = (none)
```

注 – 選択するネットワークアダプタが不明の場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ

サーバーのローカルストレージドライブが Sun Storage 6 Gb SAS PCIe Host Bus Adapter カード (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) に接続されている場合は、VMware ESXi のインストールを実行したあと、ローカルストレージドライブの VMFS データストアが認識されません。この場合は、次の手順を実行して、ローカルストレージドライブ上の既存の VMFS データストアを認識および使用できるようにしてください。

▼ VSphere Client での VMFS データストアの認識

1. VSphere Client を使用して VMware ESXi サーバーに接続します。
2. VSphere Client インタフェースで、選択したデータセンターに ESXi ホストを追加します。
3. 手順 2 でデータセンターに追加した ESXi ホストを選択し、「設定 (Configuration)」タブをクリックします。
4. 「設定 (Configuration)」タブで、次の手順を実行します。
 - a. 「ハードウェア (Hardware)」ボックスで、「Storage」を選択し、「ストレージの追加 (Add Storage)」のリンクをクリックします。
 - b. Disk/LUN Storage Type が選択されていることを確認し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - c. ローカルディスクに対応する vmhba のエントリを選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - d. 「Use Free Space」を選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - e. データストア名 (たとえば、local_storage) を作成し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - f. 必要に応じて最大ファイルサイズを調整し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - g. 提示されたディスクレイアウトが使用可能であることを確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。
ローカル VMFS データストアが認識され、利用可能になります。

ESX または ESXi ソフトウェアの更新

VMware ESX または ESXi のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。

必要に応じて、最新のアップデートおよびパッチを使用して ESX または ESXi サーバーソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

(<http://support.vmware.com/selfsupport/download/>)

ESX ではパッチ ESX400-201002001 を、ESXi ではパッチ ESXi400-201002001 をインストールすることをお勧めします。

VMware リソースの管理

VMware リソースの設定と管理については、次の Web サイトで VMware のドキュメントを参照してください。

(http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pages/vsp_pubs_esxi40_i_vc40.html)

部 II 仮想マシンシステム管理者リファレンス

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了してください。

説明	リンク
仮想マシンソフトウェアインストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップ手順	付録 A
本書の発行時点で Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	付録 B
仮想マシンソフトウェアのインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	付録 C

付録 A

サポートされるインストール方法

x86 サーバーにソフトウェアをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [25 ページの「コンソール出力」](#)
- [27 ページの「インストール起動メディア」](#)
- [30 ページの「インストール先」](#)

コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力和入力を表示するためのコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> シリアルコンソール VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用) 	<ol style="list-style-type: none"> ローカルコンソールをサーバーに接続します。詳細は、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) の「Attaching Devices」を参照してください。 ILOM プロンプトで、ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。 シリアル接続の場合のみ、start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 <p>サーバー SP への接続を確立する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。詳細は、『Sun Fire X4470 サーバー設置マニュアル』(821-2370) を参照してください。 リモートコンソールとサーバー SP 間の接続を表示または確立します。 <ul style="list-style-type: none"> Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。 ILOM Web インタフェースにログインします。 ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。 「デバイス (Device)」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> シリアルコンソールから、サーバー SP (ssh root@ipaddress) への SSH 接続を確立します。 ILOM にログインします。 start /SP/console と入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP とのリモート接続を確立する方法または ILOM リモートコンソールの使用方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>

インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースで必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) の「Attaching Devices」を参照してください。

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア • CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア • 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) 	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを確認します。 デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐ利用できることを確認します。 2. サーバーの ILOM SP に Web ベースのクライアント接続を確立し、ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。 3. ILOM リモートコンソールアプリケーションの「デバイス (Device)」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの起動メディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。 <p>ILOM リモートコンソールの詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE 起動経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して指定する必要があります。例: - Solaris Jumpstart イメージ - SLES AutoYAST イメージ - Windows WDS イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。 3. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。詳細は、このガイドで前述した PXE ベースのオペレーティングシステムインストール手順を参照してください。

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または 半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD)	オペレーティングシステムは、モジュールに設置された任意のストレージドライブを選択してインストールできます。	<ul style="list-style-type: none">• HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の取り付けおよび電源の投入方法については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。
ファイバチャネル (Fibre Channel、FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) が搭載されているサーバーでは、外付けの FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none">• サーバーに FC PCIe HBA が正しく設置されていることを確認します。 シャーシに HBA を設置する方法については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、すべてのオペレーティングシステム。

付録 B

サポートされているオペレーティングシステム

表 B-1 この付録の に、このドキュメントの発行時に Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire X4470 サーバー Web サイトにアクセスして、該当するページに移動してください。

(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

サポートされているオペレーティングシステム

Sun Fire X4470 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のリリースのインストールおよび使用をサポートしています。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2, Datacenter Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2, Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2, Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2, Datacenter Edition (64 ビット)	『Sun Fire X4470 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(821-2376)
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 (64 ビット)• Red Hat Enterprise Linux 5.5 (64 ビット)	『Sun Fire X4470 サーバー Linux オペレーティングシステムインストールガイド』(821-2379)
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Solaris 10 10/09	『Sun Fire X4470 サーバー Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(821-2373)
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Virtual Machine 2.2.1• VMware ESX 4.0 Update 1• VMware ESXi 4.0 Update 1	『Sun Fire X4470 サーバー仮想マシンソフトウェアインストールガイド』(821-2382)

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ディスクドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- 起動順序

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティで変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[26 ページの「OS インストールを実行する際のコンソールオプション」](#)を参照してください。

▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

サーバーの電源をリセットするには、次の手順を実行します。

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **ILOM CLI** で、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

- a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「キャンセル (CANCEL)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
 - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「Boot (起動)」メニューを選択します。

「起動設定 (Boot Settings)」メニューが表示されます。
6. 「起動設定 (Boot Settings)」メニューで、下矢印キーを使用して「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」を選択し、Enter キーを押します。

「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が表示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度が高最も高いデバイスです。
7. 「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - b. 「オプション (Options)」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

注 – 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

「Boot Device Priority (起動デバイスの優先順位)」メニューおよび「Options (オプション)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

または、「終了 (Exit)」メニューで「保存 (Save)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

注 – ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。コンソールの一番上で使用できる「キーボード (Keyboard)」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

索引

B

BIOS

出荷時のデフォルト設定, 33

O

Oracle VM

VM Manager のインストール手順, 9

VM Server のインストール手順, 8

インストール後の作業, 10

メディアを使用したインストールの手順, 7

S

server

電源のリセット, 13

V

VMware ESX および ESXi

インストール後の作業, 17

ネットワークアダプタの設定, 17

メディアを使用したインストールの手順, 11

VMware ESXi

表示されないローカルストレージドライブ, 20

VMware ソフトウェア

アップデートおよびパッチ, 21

サーバー電源のリセット, 13

リモートコンソールからのインストール, 11

い

インストール方法

インストール先, 30

コンソール出力, 25

ブートメディアオプション, 27

お

オペレーティングシステム

サポート, 32

